

リスクコミュニケーションのあり方について

【第1回検討部会での御意見】

- 対象を明確にしたリスクコミュニケーションは重要。
- 学生など若い世代を対象としたリスクコミュニケーションを重点的に展開することは必要である。
- 小学生やその教員を対象に積極的に研修を行うことが効果的ではないか。
- 国内外からの観光旅行者対策は重要である。

＜リスクコミュニケーション＞ (現行計画 用語の解説より)

- 食の安全安心をテーマに、消費者、食品等事業者、行政担当者などの関係者間で情報や意見を交換すること。
- 具体的には、ホームページ等による情報発信、関係者が集まって行う意見交換会、行政施策に対する意見聴取などの取組を指す。

1 リスクコミュニケーションの取組状況

- (1) 京都市では、リスクコミュニケーションを効果的に実施するため、一方向による情報提供に加え、参加者が体験を通じ、相互に意見交換できる参加型リスクコミュニケーションを重点的に取り組んでいる。
- (2) 参加対象者は、小学生とその保護者や、成人を対象にした事業を多く実施。
- (3) 各区役所でのチラシの配布やホームページへの掲載、メール配信等により周知を行っているものの、リピーターからの申込も多い。

2 観光旅行者の食の安全の確保に関する取組

世界的な観光都市である京都を訪れる観光旅行者その他の滞在者の健康被害の発生を防止するため、「京都市食品衛生監視指導計画」に基づき、観光旅行者が増加する春期及び秋期に食中毒の発生や不良食品等の流通を排除するための取組を実施。

- (1) 宿泊施設や、京の食文化を代表する食品製造施設（和食や和菓子等）への一斉監視
- (2) 土産用菓子やそうざい等の抜取り検査

3 課題

- (1) ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）等の情報媒体の発達に伴う、誤った情報や不安をあおる情報への対策
- (2) 次世代を担う若い世代への対策
- (3) 無関心層への啓発や情報発信の方法

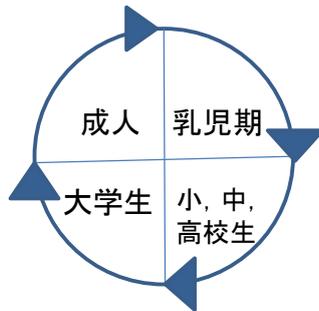
4 対策

(1) 目的や対象の明確化

目的や対象を明確にし、ライフステージ（年齢階層）に応じた体系的なリスクコミュニケーションを展開する。（参考：消費生活総合プラン）

また、ライフステージ毎に情報の主な入手方法が異なることも考慮し、より効果的な情報発信の方法を検討する。

ライフステージ (年齢階層)	情報の主な 入手方法	取組方針	取組の 目的
乳児期	家族，知人	・子どもと保護者が一緒に学ぶ取組 ・保護者への情報提供	育成
小，中，高校生	学校教育 テレビやSNS	・学校教育との連携 ・教職員への情報提供	
大学生	テレビやSNS	・大学や学生との連携	実践
成人	新聞やテレビ SNS	・ライフスタイルや立場に応じた 情報提供	



(2) 次世代を担う若い世代への取組

「大学のまち京都・学生のまち京都」の特色を活かし、大学生等の若い世代への食の安全安心に関する啓発を充実させるとともに、連携を検討する。

(3) 食育との連携

本市食育担当や食育指導員と連携し、主に幼稚園や小学校での手洗い講習会や食の安全安心に関する情報提供などの充実を検討する。

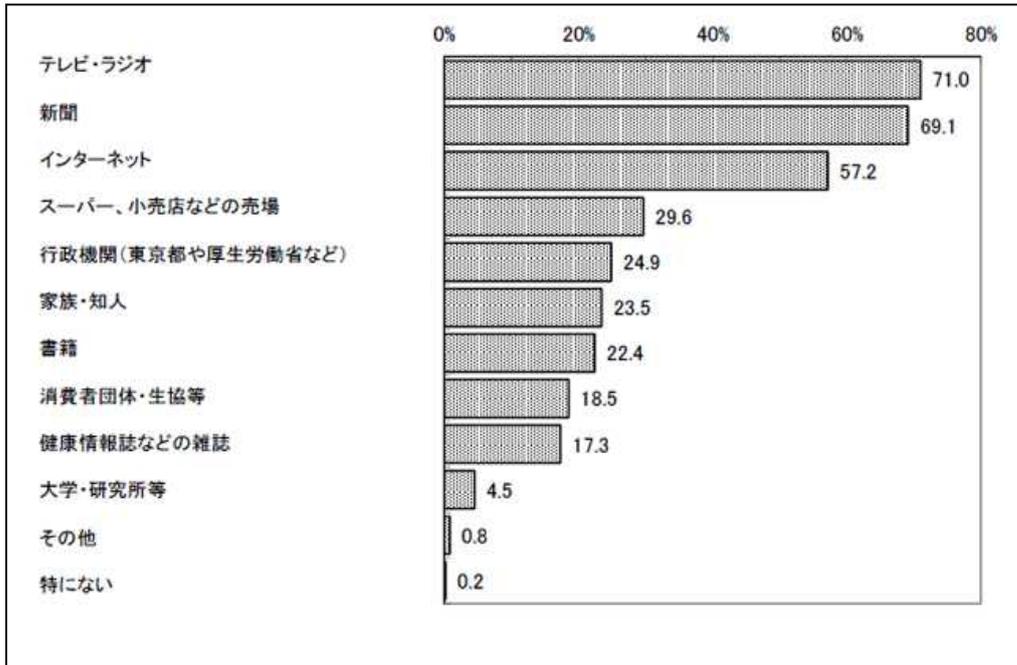
(4) 観光旅行者への取組

従来から実施している食品関係施設への監視や抜き取り検査の実施に加え、これらの情報を正確かつ適切に情報発信する仕組みが必要。

(5) 推進方策

消費者担当部局をはじめとする庁内関係部局や国及び他行政機関と連携し、更なる効果的な取組の推進を図る。

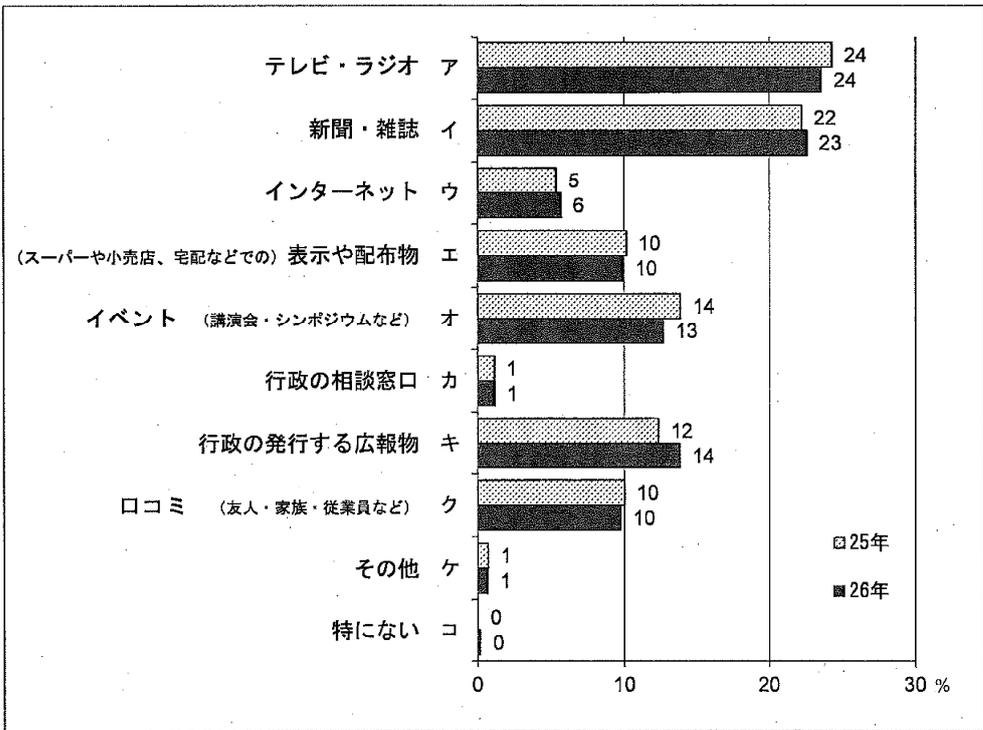
<食の安全性に関することの情報源>



N = 486 複数回答可

(平成25年度第2回インターネット都政モニターアンケート結果：東京都)

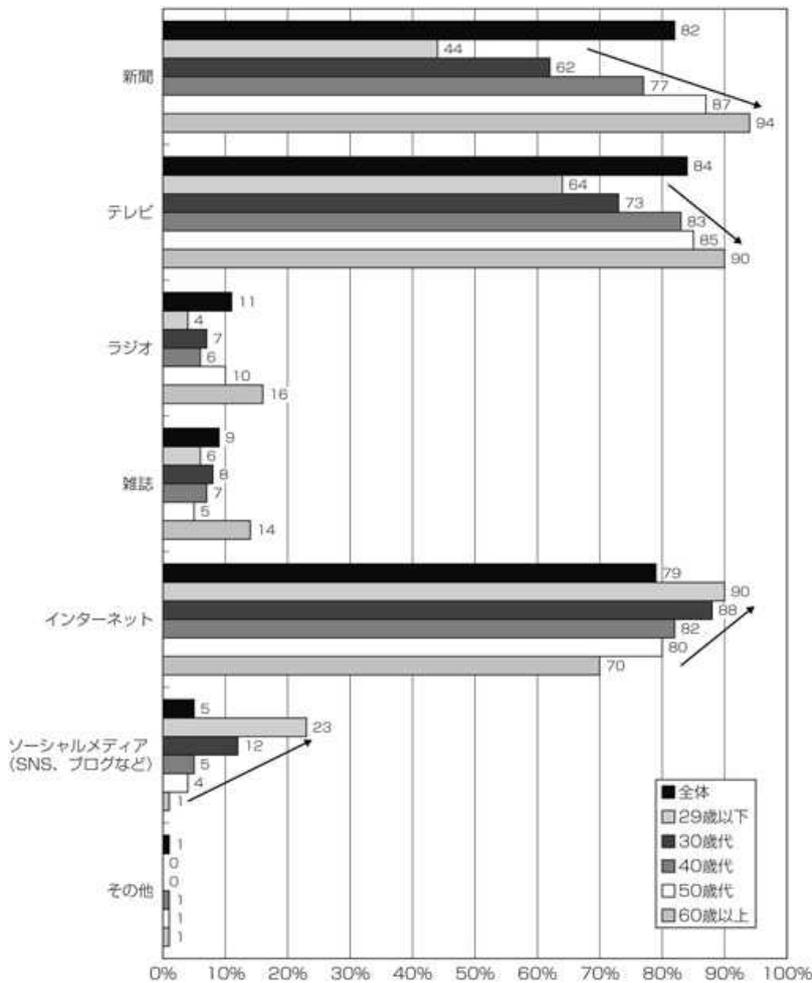
Q6 あなたは、食品の安全の情報について、どこから得ることが多いですか。
次の中からいくつでも選んでください。



N = 283 複数回答可

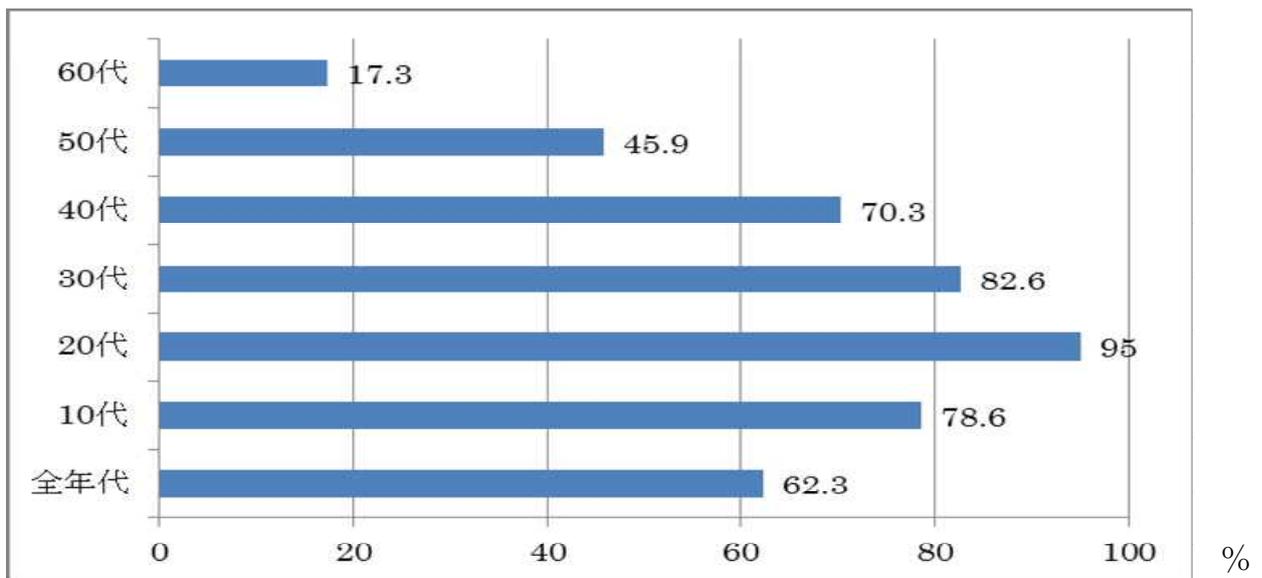
(平成26年度食の安心・安全アンケート調査結果：京都府)

<一般的な情報源>



3つまでの複数回答 N=3,146
 (情報源に関する意識・実態調査報告書
 : 一般財団法人経済広報センター)

<主なソーシャルメディアの年代別利用率>



<ソーシャルメディア>

LINE, Facebook, Twitter, mixi, Mobage, GREE

(平成26年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査: 内閣府)